

環境先進国

ドイツから学ぶ

11

吉田 浩巳



今回は、ドイツの具体的な環境政策についてヘッセン州環境省の政策担当者であるティール氏から聞いた話を皆さんと共有したいと思います。

ドイツの環境政策では「持続可能な社会」の実現のために、以下の三つの要素を基本に環境政策を策定し、実行に移しているそうです。

①エコロジーに配慮した社会システムの構築②適度な経済成長③充実した社会保障システムに基づく社会

め市町村レベルにおいても各地域での法律や政策に特徴があり、連邦政府で決定した大きな枠組みをもとに州ごとに独自の政策を実行しています。

また、ティール氏はプロジェクトを実行していくためには実際に活動してくれる方との対話が必要だと考え、まず専門家を集め、次に現場の方、市民団体、企業に協力を求めたそうです。

州が開催する審議会や理事会では、政治家や産業界

なことを審議します。主なメンバーには環境援助団体

代表、環境保護の財団代表、WWF(世界自然保護基金)の代表、地域の電力会社の代表などが名前を連ね、監査役として環境庁長官と専門官が就任していました。

ヘッセン州では他の州と違い、環境に関する青少年活動のセクションがあるのも特徴です。常に専門のコーディネーターが戦略を練って活動しています。

特筆すべき事項としては、プロジェクトの実行にあたっては全ての省と連携して行っており、日本のような縦割りシステムではないことです。

環境政策に州の独自性

市民を交えて事業決定

の安定化で、日本との違いは、ドイツは連邦制のため

の代表、市民の代表などが入り、資金調達などの重要

また、事業年度のプロジェクトをスタートさせる前には、事前に事業を実行する優先順位を決めます。そのため、3千に及ぶ企業やグループにアンケートを取り、これを参考にして事業決定していきます。

グループの中には連合会や連盟、婦人会的なものやNPO、さらには大きな影響力を持っている個人も含まれています。このように、市民が政策に大きく関わっていることも大きな特徴といえます。



(社団法人まちづくり国際交流センタ